

都市再生整備計画 事後評価シート

鯖江鉄道沿線地区

令和4年8月

福井県鯖江市

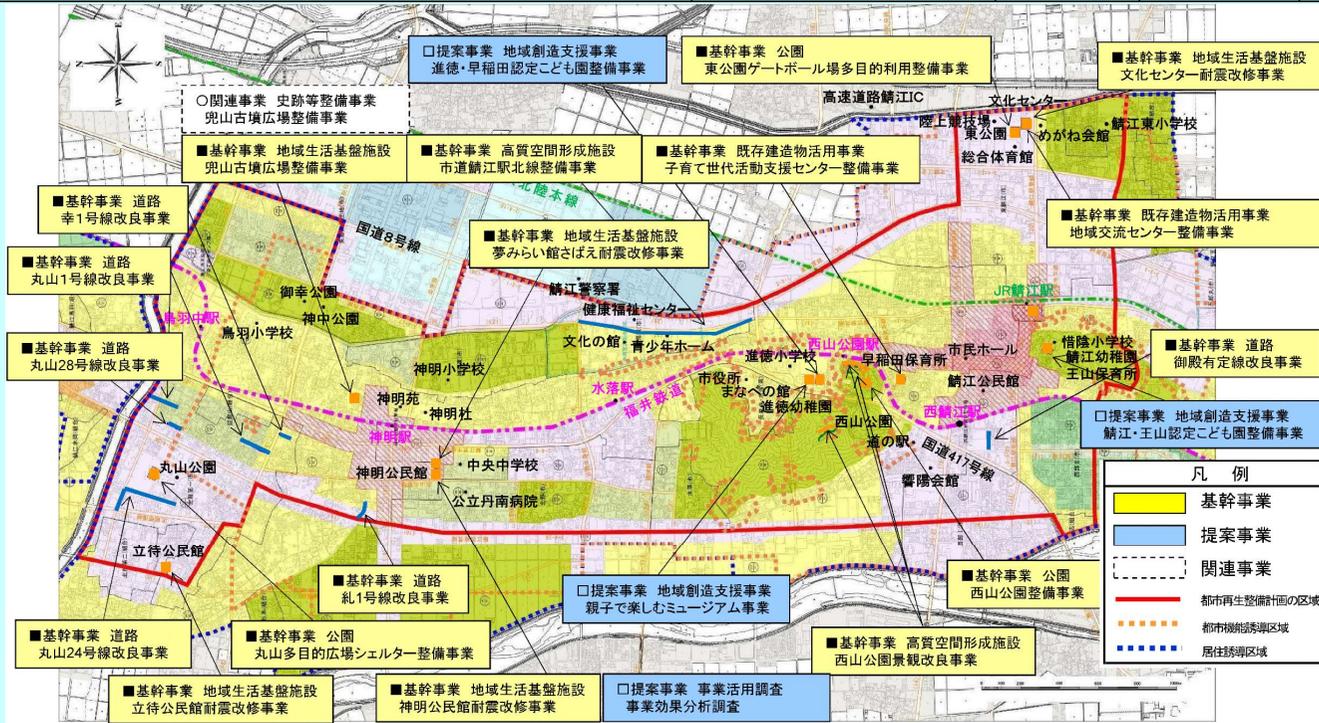
様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福井県		市町村名	鯖江市		地区名	鯖江鉄道沿線地区		面積	740ha			
交付期間	平成29年度～令和3年度		事後評価実施時期	令和3年		交付対象事業費	1961.03百万円	国費率	0.416				
1)事業の実施状況	事業名												
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路(市道丸山24号線他4路線)、公園(丸山公園他2公園)、地域生活基盤施設(立待公民館他4施設)、高質空間形成施設(西山公園、駅前シェルター)、既存建造物活用事業(子育て世代活動支援センター)										
		提案事業	地域創造支援事業(鯖江・白山認定こども園、進徳・早稲田認定こども園、まなべの館)										
	事業名												
	当初計画から削除した事業	基幹事業	高質空間形成施設(駅前シェルター)、地域生活基盤施設(勤労青少年ホーム耐震改修)	削除/追加の理由					削除/追加による目標、指標、数値目標への影響				
		提案事業											
新たに追加した事業	基幹事業	道路(市道御殿有定線)、地域生活基盤施設(兜山古墳広場)、高質空間形成施設(市道鯖江駅北線)、既存建造物活用事業(地域交流センター)	街なかの歩行環境改善、高質な地域環境の形成、地域コミュニティ拠点の形成を強化するために追加					影響なし					
	提案事業	事業効果分析調査	データ整理、分析、評価を行うために追加					影響なし					
交付期間の変更	当初	平成29年度～平成33年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響										
	変更	平成29年度～令和3年度											
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ	
	指標1	地区内人口減少の抑止	人	22,059	H28	22,080	R3	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	予定時期	
					基準年度	目標年度							
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値	目標値	数値		目標	1年以内の	効果発現要因(総合所見)		フォローアップ	
	その他の数値指標1	住宅の建築状況	件	37,667	H28			モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	予定時期	
	その他の数値指標2												
	その他の数値指標3												
4)定性的な効果発現状況													
5)実施過程の評価	実施内容			実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									
	住民参加プロセス	まなべの館で開催する「親子で楽しむミュージアム」における企画展等で、親子で鯖江市ゆかりの歴史文化、芸術作品にふれあう機会を創出		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● 親子の交流を深める機会は子育てををする環境にとって重要なものであると位置づけ、ソフトとハードの両輪による子育て支援事業を今後も継続していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	なし		都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった									

様式2-2 地区の概要

鯖江鉄道沿線地区(福井県鯖江市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値
『多様な世代が安心・快適に生活できる環境の創造』 目標1: すべての人にやさしい安全・快適な生活環境の整備 目標2: 災害に強い防災まちづくりの充実 目標3: 若い世代のニーズに応じた子育て支援の充実	地区内人口減少の抑止	単位: 人 22,059 H28	22,080 R3	22,243 R3
	市内指定避難所の耐震化率	単位: % 83.1 H28	89.1 R3	89.1 R3
	子育て支援に関する満足度	単位: % 74.0 H26	82.0 R3	82.7 R3
	単位:	H	H	H
	単位:	H	H	H



まちの課題の変化	<ul style="list-style-type: none"> ・道路の有効幅員拡幅により、歩行者の安全性、積雪時の歩行性が高まり、歩道環境が改善された ・広場や地域交流拠点の整備により、街なか居住の魅力が向上した ・避難施設の耐震化率向上により、地区内居住の安心感が高まった ・既存施設を有効利用した子育て支援施設の効率的な整備ができたが、社会的ニーズへのきめ細かな対応が今後の課題となった
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ・公共交通機関や地域生活拠点施設を核とした歩行ネットワークの充実に向けた取り組みを今後も行う ・新幹線開業に関連し、広域交通と地域交通が連携する移動環境の整備を行う ・避難施設の耐震化100%を早期に実現する取り組みを継続していく ・これまでの安全な歩行環境の改善に関する取り組みを継続して実施し、安心安全な暮らしの環境をさらに高めていく ・今後も子育て支援環境に関する満足度を高めるため、積極的な広報を行うほか、親子の交流イベント等のソフト事業やハード整備の実施を行っていく